

秋田弁噺

私の秋田弁ライフ
(10)「私の秋田弁ライフ」が取り持つ
ブラジルとの縁

人の縁とは本当に不思議なものである！平成28年度の「金砂健児の集い」で本校同窓会長の工藤嘉範さんから「地主さんは豊岩の出身だよな？」、「んだ！豊岩だども、なんとしたしか？」、「このあいだ、ブラジル秋田県人会55周年式典でブラジルさ行ってきたもの、したらせ、そこに田口寛二さんがいて、豊岩の前郷の出身で秋田工業の定時制にいだど言ってだども、分かるしか？」ときたもんだ！「分かるもなんも同級生だもの！ブラジルで大成功したと聞いていますよ！」中学卒業以来会ったことも無い同級生にこんな形で邂逅(かいこう)するとは思いませんでした。

そして、またもビックリ！「なまはげ通信」でお馴染みの船木さんが工藤同窓会長のブラジル式典参加の記事と写真を東京秋工会のホームページに掲載したのを見て、たまげたな！ドデンしたな！写真に工藤会長を挟んで田口寛二と伊藤武(S36E)さんが写っているではありませんか！！

伊藤武さんは平成25年度の東京秋工会の総会に来賓としてブラジルから出席して頂いた、ブラジルのサンパウロで行列のできるラーメン店の経営者として大成功した方です。私と同じ町内に住む加賀谷健治さんは伊藤武さんと同級生で、毎年発行の「金砂」をブラジルの伊藤さんに送っていて、伊藤さんが「私の秋田弁ライフ」が一番面白いと言っていたことを思い出し、懇親会場で親しくお話をさせて頂いた方でした。まさかブラジルで田口寛二とお友達とは知る由もありませんでした！

▼ 工藤 同窓会長 ブラジル訪問時の写真より



左から
田口寛二氏
工藤同窓会長
伊藤武氏



田口夫妻(右)と
医師の娘さん(左)



伊藤氏に
BB秋田シャツを
プレゼント

田口寛二との思い出と言え、あの頃はどこの家も貧乏でしたが、寛二に怒られるかも知れませんが、俺の家と、いいところ勝負の貧乏でした。寛二の家に遊びに行くと屋根の上に高い柱が2本立って電線が張って有り、家の中には何やら見たことも無い器械に向かって「CQ! CQ! ナントカ・カントカ・・・こちらナントカ・カントカ！」とマイクに向かって喋っている寛二がいました、貧乏なのに何であんな高そうな器械が有るのか不思議でした。寛二はアマチュア無線をやっていたのです、日本はもとより世界国中の仲間からの交信カードを見せてもらいました。今にして思えば、あのころから寛二は世界に目が向いていたのかと納得するのです。ブラジルではこの無線の技術で成功したのでした。

ここに、田口寛二からの今年の年賀の手紙を紹介します。

【明けましておめでとうございます。2018も素晴らしい1年でありますように！世界大恐慌時をうわまわる不況と言われるブラジルの景気の低迷もいよいよ出口が見えてきたようです。より良い生活を求めてこのブラジルに来たのだが、日本の一人当たりの国内総所得はブラジルの4倍強でお金の面だけ考えれば勝負あった！

新聞TVを見ると大物政治家や大企業の幹部の不正や裏工作が次々と明るみに出て他人の迷惑などお構いなし、自分の利益が第一と手本

The technical group which wrestles with the reproduction of natural environments
Limited Liability Partnership Land Owner Office
project management group office
2-23-8 Tsurumaki, Tama-City Tokyo 206-0034, Japan
japan TEL:+8142-371-3630



自然環境再生にとりくむ技術集団(プロジェクト マネジメント グループ)
有限責任事業組合 ランドオーナーオフィス
〒206-0034 東京都多摩市鶴牧2-23-8
TEL 042-371-3630 FAX 042-371-3687
理事長 地主 勝己
(昭和37年 土木科卒)